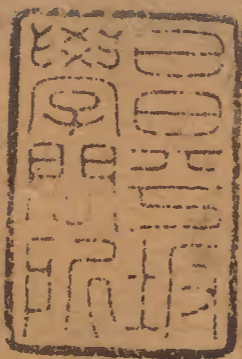


後愚昧記

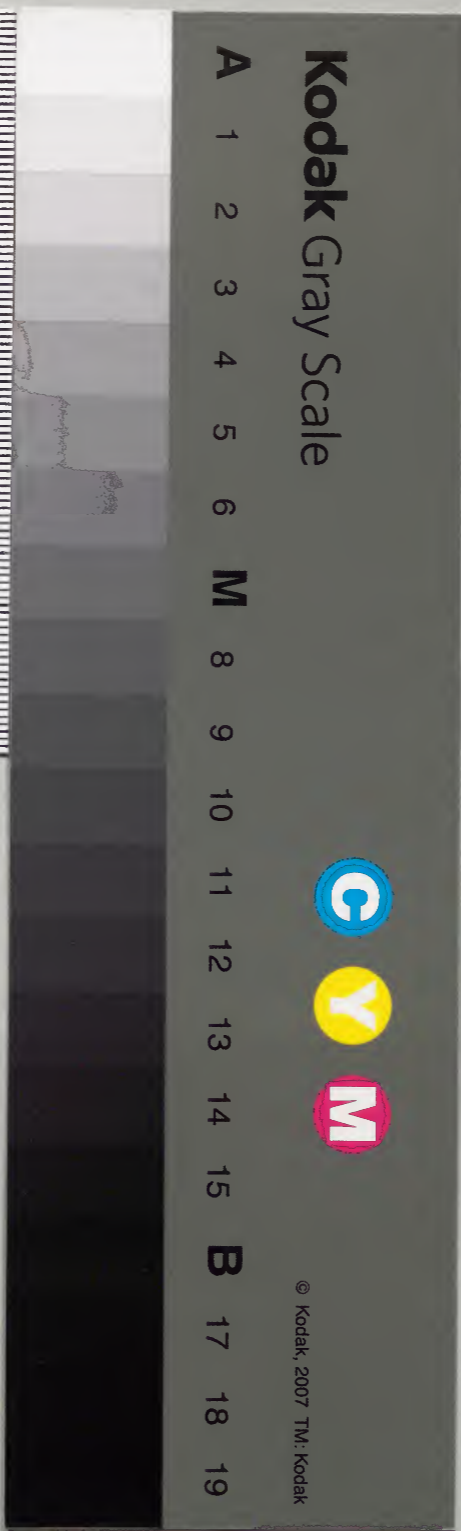
八



和書門	
一五九三號	函
二一五	架
一〇	冊

內閣文庫	
一五九三號	和書
一〇冊	函
一〇架	冊

內閣文庫	
番號	和 15693
冊數	10 (8)
函號	162 150





久我大納言

公卿
日節會

外弁上七
右大臣殿

新大納言

万里小路中納言

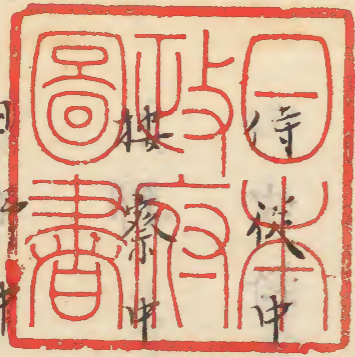
一條中納言

中御門宰相

左大臣宰相

正親町宰相中將

宣命使



日野中納言

中山宰相中將

右大臣宰相

淺草文庫

女納言
副
淳副朝臣

弁

知輔

次將

左

季尹朝臣

右

教冬朝臣
教遠朝臣



藤原長朝
藤原長房
藤原長衡
藤原長實

菅原長朝

菅原長實

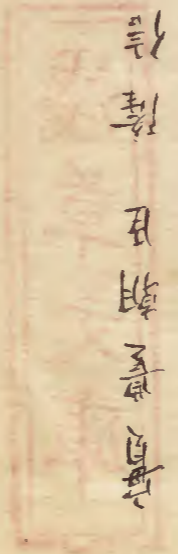
菅原長房

菅原長衡

菅原長實

菅原長房

菅原長衡



二日天晴今夜有殿上園醉
客承二君河之次至上於
前上戶浙人倚子浙覽其儀

四日暮妻婿之儀大納言向左府
及幕會亦雜談仍花園左府自予
有之為之注新者之由申左府

由被月之波次才注為實
子意冬以來依港只亦有之
左府大納言

左府大納言

八海不傳之有怖畏之至被蒙面十力力進
後可至之也身之了自尤房富法向抄政事小押
九踏鳥抄泉屋對面

五日霽陰不定花園次才七日十六日亦也
元日不取持

胎副大納言狀也今在子家為之寶之間為悅

之也有返事及次子託子字一置今日隨為

至上漸衰日候延久寬元之例改行叙任候

例之略也朝非改於抄改由戶彼行之概等右大

弁宰相經經以漸即任叙任再計叙任共以勤
仕小尤大弁候何不勉仕候不堪甚事候可
謂無念者也余仕人、再又眼上比可尋之
許書直之日之後到京、

大炊頭師友進

山科前宰相此仁列祖中絶之系任吾族倍乃

正二位藤原教言

正三位藤原保冬

藤原教嗣大納言任次上首保冬

藤原季村九年周白任教公身

藤原永季

藤原經重

從三位藤原氏房

正四位下源業純

從四位上藤原行俊
菅原言長

中原師香

藤原賴房

清原宗季

正五位下小槻彦枝

中原師夏

從五位上源則秀

從正

菅原長遠

簡一

攝知季

從五位下康長王寬和

藤原範方式部

源直資

藤原氏輔

攝以益

高階經家

源定親

無品昭子親王
當年給

藤原邦光

從三位藤原朝臣
仲子當年給

源定幸

諸司

藤原康春

諸司

紀行定

左近

藤原倫政

右近

三善久棟

外衛

平行廣

外衛

安倍種昌

外衛

如式了代急親王
不親王作薨
德治以來兩之度例
之也

勅授事朝長之勿漏

七日晴薨會散狀云

白馬薨會

公卿

白馬薨後

内弁 退出兼右大將

左大臣殿

白馬薨後退出

内大臣

西園寺大納言

新大納言

花山院大納言

万里小路中納言

平条中納言

左内大臣退出

外弁上卿以前早出

右大臣殿

續内弁

今出川大納言

九条大納言

大炊門大納言

侍從中納言

按察中納言

日野中納言

河内朝使作之

中河内宰相 宣方

中山宰相 仲雅

禄不

左大弁宰相 俊仁

右大弁宰相 经定

常命宣命使

正親町宰相 公仲

少卿言

秀長朝言

弁

祿所

家房言

次將

龍



親雅

经定

公仲

大吹

大吹

大吹

輔

引

資

家房

引

職

季尹朝臣

公邦

教

日朝

資廣

右

日朝

隆

日朝

教

後日師香瓜送云保冬比是任在改事十二月

亦七日宣下之垢川宰相中將具言此家臣

又因改坊別當事今日七日古陣被宣下

之持大納言實由也上以大吹河内朝大納

云

八日...



八日霽沂府會有云云存之

十一日武家評定始云云

十二日晴後不定上為御祭

今日亦七日也乃愜不也

設責保之依不獲止乃各

之日所治也

夕夕

十三日

色米若用白被送快云

又踏分長云親王之被以

以之犬細云致沂系云

叔障云我命也親者密

多云又親王標南之犬臣

中細言云常候云

之例云不以小境柳不

兼存云也

延事云十六日節會親王參事遙遊之後
實者系事不思身以爲又大臣標與親王一列
事未得不見以爲裝束記文皆親王標南立大
臣標之將又竹園扶持事正親町方內有候
忠者不存知也者

久我大細言 具通以送快

傳聞去年十二月廿三日
津祇大副卜尸

相后兼巡 哲 吉田津地彼一流致了賜胡長
之者先々不 被極昇殿 希代事也 津祇

然允如何 被極昇殿 希代事也 津祇

十四日御所會內論義有每可尋之 又後七日

法加持香水儀了君之

十六日時之嚴雨下或休入夜不降雨踏分節

會事後日十奈中納言以勝昭經任送之系仕

之卿

正尹滿仁親王

正尹事改宣下
仍被卷
申次及元中并資衛能臣

不着外并座后列之時相規

内大臣内并行外并事

大納言六人

實直 公永 經副
放嗣 保光 通定

中納言七人

通氏 嗣房 資康 仲光
季顯 公勝 資教

參議八人皆參

泰列時分甚兩然而為晴儀諸入周章

光以下堂上座不以之向自軒廊退了中納

言仲光季形以勝資教系後保冬氏房

以兼長翊后亦自行廊退

至于氣被用晴儀并妓以後兩儀也

浙酒勅使

祝雅

宣命使

仲光

左槐兼後早出

但用

内府續内并

左槐大臣

内并大臣續之事近代無之元然而依時宜

續行之款其上内府大臣以後未著陣款但不

及先規是肥汝汰者款

又親王每一茶九茶亦早出

後同仲光以去年十二月輕服出奉三節會共

必不... 之... 度也... 而... 時... 以外不快

後園... 夜... 寶院... 侍法師... 內裏見物之間与

昔... 闢... 諱... 法師... 接腰... 之間以鐵鞭被打破

故... 大略... 及... 死... 門... 被... 面... 縛... 之... 間... 以... 鐵... 鞭... 被... 打... 破

十八日... 相... 泰... 肉... 三... 禪... 丁... 亦... 充... 諸... 大... 名... 亦... 令... 進

之... 今... 隨... 身... 泰... 肉... 三... 禪... 丁... 亦... 充... 諸... 大... 名... 亦... 令... 進

之... 今... 隨... 身... 泰... 肉... 三... 禪... 丁... 亦... 充... 諸... 大... 名... 亦... 令... 進

之... 今... 隨... 身... 泰... 肉... 三... 禪... 丁... 亦... 充... 諸... 大... 名... 亦... 令... 進

其... 雨... 下... 亦... 一... 日... 晴... 陰... 不... 定... 自... 今... 曉... 瑞... 雪... 交... 比... 深... 四... 五... 寸

亦... 一... 日... 晴... 陰... 不... 定... 自... 今... 曉... 瑞... 雪... 交... 比... 深... 四... 五... 寸

亦... 一... 日... 晴... 陰... 不... 定... 自... 今... 曉... 瑞... 雪... 交... 比... 深... 四... 五... 寸

亦... 一... 日... 晴... 陰... 不... 定... 自... 今... 曉... 瑞... 雪... 交... 比... 深... 四... 五... 寸

亦... 二... 日... 霽... 亦... 一... 日... 晴... 陰... 不... 定... 自... 今... 曉... 瑞... 雪... 交... 比... 深... 四... 五... 寸

亦... 二... 日... 霽... 亦... 一... 日... 晴... 陰... 不... 定... 自... 今... 曉... 瑞... 雪... 交... 比... 深... 四... 五... 寸

亦... 三... 日... 霽... 亦... 一... 日... 晴... 陰... 不... 定... 自... 今... 曉... 瑞... 雪... 交... 比... 深... 四... 五... 寸

自武家被取放言
依行事亦志以不宮中
沙門宰相宜方以況之由丘首廢耕之
威德寺源師來條今春始不來也今夜山宿明
後日可也

十六日夜不所破攻之法師及死門致之也凡
少之系在生無子細言之三寶院過經廻之仁
說也

通國若開白被向武家係扣請也言有贈物亦

後因賀抄并象座願象時半今日未接政知行
之而被返付本主經重只好今一不何地成
下尋之於東山

亦以月大細言向武家

亦九日後光嚴院重忌也純之云河八海云河
經供養不及被切之人之思武家時直不出仕

之在元

後同僧侶者各入行泐致供養之御殿上
人不泰言及新中元入

二月

一日入夜... 有叩門之者相尋之象自
仙洞局下女走來之上病有不適之語也血
不止淺穠也... 仍女房者... 徒跪之令急
泰... 其後... 女房者不設... 其女... 相
新院令打又為行拔御叙以沙

叙奉令打上病勢仍血多出不出... 過急不

知... 每... 申... 是... 步... 時... 侍... 役

古... 境... 務... 每... 湯... 卷... 亦... 用... 意... 之... 月... 不... 希

事... 不及... 是... 北... 沙... 治... 令... 打... 入... 行... 如... 此... 法... 如... 擲... 願... 不

滑... 其... 意... 事... 也... 若... 有... 終... 人... 之... 友... 乞... 飯... 又... 有... 罪... 科... 改

及... 法... 退... 出... 有... 主... 上... 皇... 意... 人... 是... 不... 及... 如... 此... 法... 改

此... 凡... 不... 云... 說... 者... 試... 未... 同... 珠... 事... 也... 莫... 言... 改

二... 凡... 上... 病... 故... 無... 者... 御... 有... 心... 字... 但... 連... 有... 級... 入

二... 凡... 上... 病... 故... 無... 者... 御... 有... 心... 字... 但... 連... 有... 級... 入

府被送狀於大納言淨此可裁狀仍七番申之
由獻返事一入夜行向老府至紫束案物未境
密不能秘申此事又此七送心之仍別去密案
已與密不可動向也先以友是朝臣申次直密
之申請之直又新之系在日人之皆以為計後
更不可被除方被再之
相以介被奪之族也
九日於院淨没落丹州山回庄之由有甚况然

百慮誕也
十日
十一日
家為
進出
院愛
今日
出

院愛通日急之左也不便之

十二日 左府番田抄政奉令

十五日 今夜噴席研卷以亦為左府使奉仙

洞而身法對面入法之時似堂之被劫法朕

者被作之... 是為武家可奉既流之命依有

若說如此被作歛... 後同准后行... 依被宥

申懇有法對面

今夜系中下是係此事駭初... 付共有後

若說亦不被祥紀之處處說亦有之也

十六日 戌刻詳於院遷幸梅町殿准后 師典

侍隆 那以京御車後編女車凍後也此御幸之辨

之 是依何為令幸亦人皆成不室者也

十八日 武家懇望申 仙洞尹書元進誓文之各有

其說就中抄政方里小活中細之亦一被罪科

之由自院被作之其院入服之弓一有 是幸

之由風國仁法京是為是自今夜可行例年

聖天供^之故也。是去年分也。自初夜時始欲之。

平糶^之色^之。...

亦一日... 府... 田...

亦八日... 府... 田...

亦五日... 聖天供^之結願^{日中時}仁永均^{字治}...

亦八日... 府... 田... 按政... 倉有被^之...

按政... 倉有被^之... 倉有被^之...

亦九日... 大納言入^之... 仙洞可

有遷^之... 倉有被^之... 倉有被^之...

亦日日... 仙洞... 院... 大納言... 可被^之...

由有... 其... 今... 月... 申... 被^之... 行... 公... 事... 未... 大... 外... 記... 師... 香... 朝

臣... 送... 之... 仙洞... 院... 大納言... 可被^之...

三月... 院... 自... 梅... 所... 之... 還... 幸... 小... 川... 号... 升... 大

一日... 院... 自... 梅... 所... 之... 還... 幸... 小... 川... 号... 升... 大

此事... 可... 為... 明... 後... 日... 三日... 又... 院... 執... 事... 之... 為... 右

此事... 可... 為... 明... 後... 日... 三日... 又... 院... 執... 事... 之... 為... 右

此事... 可... 為... 明... 後... 日... 三日... 又... 院... 執... 事... 之... 為... 右

此事... 可... 為... 明... 後... 日... 三日... 又... 院... 執... 事... 之... 為... 右

此事... 可... 為... 明... 後... 日... 三日... 又... 院... 執... 事... 之... 為... 右

此事... 可... 為... 明... 後... 日... 三日... 又... 院... 執... 事... 之... 為... 右

大并經重以由有具說又按案局左府

案通之由有申之仁仍計另時宜不使此事也

之申准后被傳之另左府不然之另書達摺文

中門字九說由
止首座語之

大納言向毗沙門堂坊見庭花予不行向之

二日晴風柳吹上為沐浴醫師行二衣所衣表
地白

及千織物裝柳色下
重心衣而練紺裝柳一取自予方致馬月毛

今余因之行之相長之由退出

三月霽雨刻許時院道幸小川亭令案左府

車鈔左府希御車後北藝御幸之後仍殿上人

下水面未不及供奉之儀左府出行之狀也武

家輩兩三騎在車後直去局入御小川之後有小

一狀不經祇左府退出希內有圖雜之真為

見申主上也及深更退出

柞嗣房資康資教亦以先希內祇以左府自

仙洞退出之後希院

九府命乞為何

一心院狀

德以聖護院

都

之為源史

法之上路之由在之委依錄倉兵衛僧之厄致

留之月不及上路但承法亦下下向之身亦也

之在是狀亦按法亦許自是又之口入之

甲廿一心院狀

在狀未亦來以難中是此之身按法亦返事有

之仍是取超僧都許了自其一心院狀亦也

字法亦名亦也

公時以不勞於指掌之也其說仍務也

府之身自去十八日有瑞掌神大略存定分

就其反相事懇欵之身申武家之身昨日被

定下之仍心狀也

六日雨下九府被向在清前開白亭自去月

比經吳之按政被衆會

九日自今日入土用卜

十日人參養榮湯服始之服劑之法也先

日二服之名廣成朝長身之加也今日痔下血

更發

十一日今晚新大綱台出時以率去辛酉

心動換而另也後因終身之辨穩便唱六字卷

号教百及任正念如眠息級一之昂智僧向

正親町相訪之時又云不措也之前内府七

十一歲程之病而存命先少不定之境表一

但世月之正常不始小令事也不一等之皮一

流表微也計以武家直色快就家領一事心半

河之強之另係家門以洞色之定是題之此類

之或说又之活不叶而存命是太綱言不豐於

身及快就之由有其说也南亭是活也定為實

事之就者諸人推察之桑菟小妻媽之向心使

者活也之長汝不叶向也明日為辰日尤一相

怪之明後日也仍務也
大細言濟塔藏淨金剛院
以舍才也代子息亦相續
也又後少造法子無初
身什万里小活中細之令
十日晴思智僧未教刻
十日霽寺房泰內共後
仙洞

十七日霽入夜雨下
憂然胡臣許一被送
不致確以位殿上人
是仙事小允先代未
皆以之成計思允言
乃若回社主藏讓補
計說定為實事也

十八日天晴風靜吹

以九中并寶御胡長送御書於大綱云自來
廿六日下札如野縣石除目注泰事一為行檢
此外記表狀邊之月且言上如件減正坊之
減正坊之也如以時御前之只何言上如件
詳也有其七之至可謂比其心
十九日陰入夜雨下大外記所香胡長是狀云

縣石除目奉行事不若難矣之月申左障之也

月以清大外記良噴之奉仍之皆申狀下

又云詳定始可為未亦八日之也風吹不久殿

始者未奉及之

今夕也府系一月

昨日晴風吹寶御胡長送御書於大綱云自來
請又志矣其人必之存知之也也故障之也
出請文之丘之在諸日宣方以一任中綱云

又云大納言事公時以卒去以奇支之日凡間
通氏以可今夜之罪者一被任之方申左府公
州江津一卒去之案也歎之時分不給早遲也
法之也被存左府邊事以介腹之問今夜
除用劉房以仁之案治定之又由御語云
先日去十日後任以納言而事向左府亭
一被舉申之不就者一失生涯之方任於冬朝
臣再三陳之數反及向者左府返答之類以外
暖立之狀也由御乃菊才方門府共向左府事

仍曰昔御極難而守也云々如披匠若之類者
經之以之類越之案勿論之云々今日攝政事
左府被拓請之在清方開白系令云々
其一日晴四案方中細言隆持仁計也三日卒
去之云々去十六七歲之人凡隨指也觀天寶選
氏也之表之清去十六日事之十三日去案
殿御致供養翁者十六日卒去領病死

亦三日 禁書御不例以介法履刺自武家下
色士佛法法師申去府并津雲字注
計一表日士仙調色御良茶
亦比日前大細言保光以相召除月並戶後仍
以延蒙二年以縣百除月續友茶法記注也
走下初日後也
亦六日雨下縣百除月始也 並戶致抵字右大

奇宰相鏡定江也 大細云當年竹申文 從七位 上左井

夜繁望加 賢回大目 付以九中并資衛朝臣 孫目 奉行 一 無 返

事愆舒之由以詞命 柳系相召申久舊葉亦

仍葉子一帖借也

亦七日雨不下 今日中夜也 柳系中納言 資原

在召野官奉葉定領奉事並戶致注也 考致 又兵

清啓葉長翅臣相召諸注也

亦八日晴終夜也 柳系又相召請出上以後仍

注書一今日 仙洞評定始也去年穰任之後
未敢行之春任人務政近清花開日右府万里
小治後日三月万里小治中細言亦之文政
始又被行七月召之齋院御代評定始日日文
政始有行六月今治中細言亦之文政
除月三之夜交狀後日保光江原送之
中治中細言亦之文政
中治中細言亦之文政
中治中細言亦之文政

縣石除月

初夜

公卿

一系大細言

按察中細言

日野中細言

右大弁宰相

辨

賴房朝臣

家房

引 辨 辨

知捕

賢衛

長

大平

清

而役教上人

行後朝

按察

才二夜

入眼上

公卿

并

大炊

右大

日野

以下日初夜

時

按察

并日

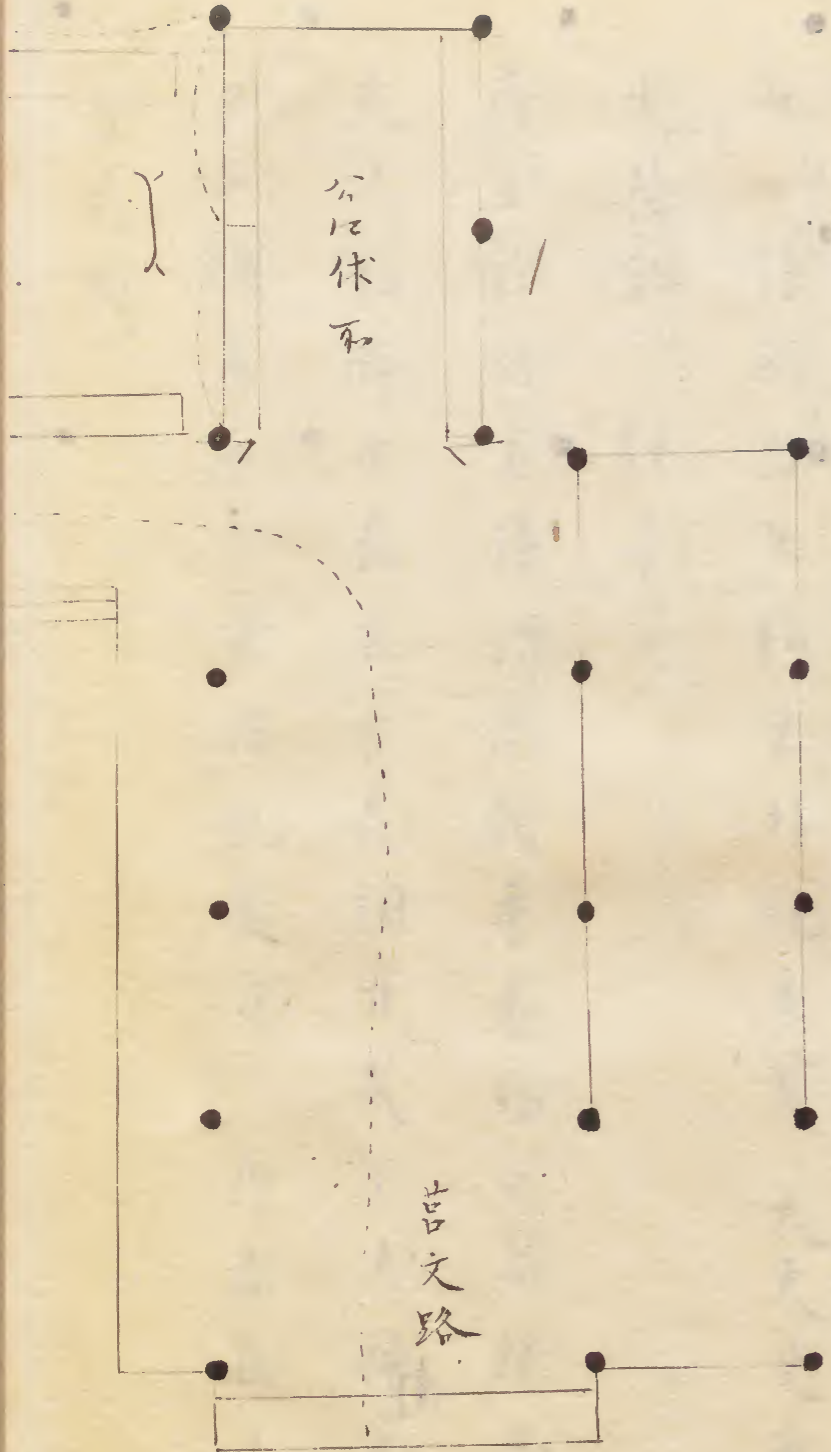
竟夜

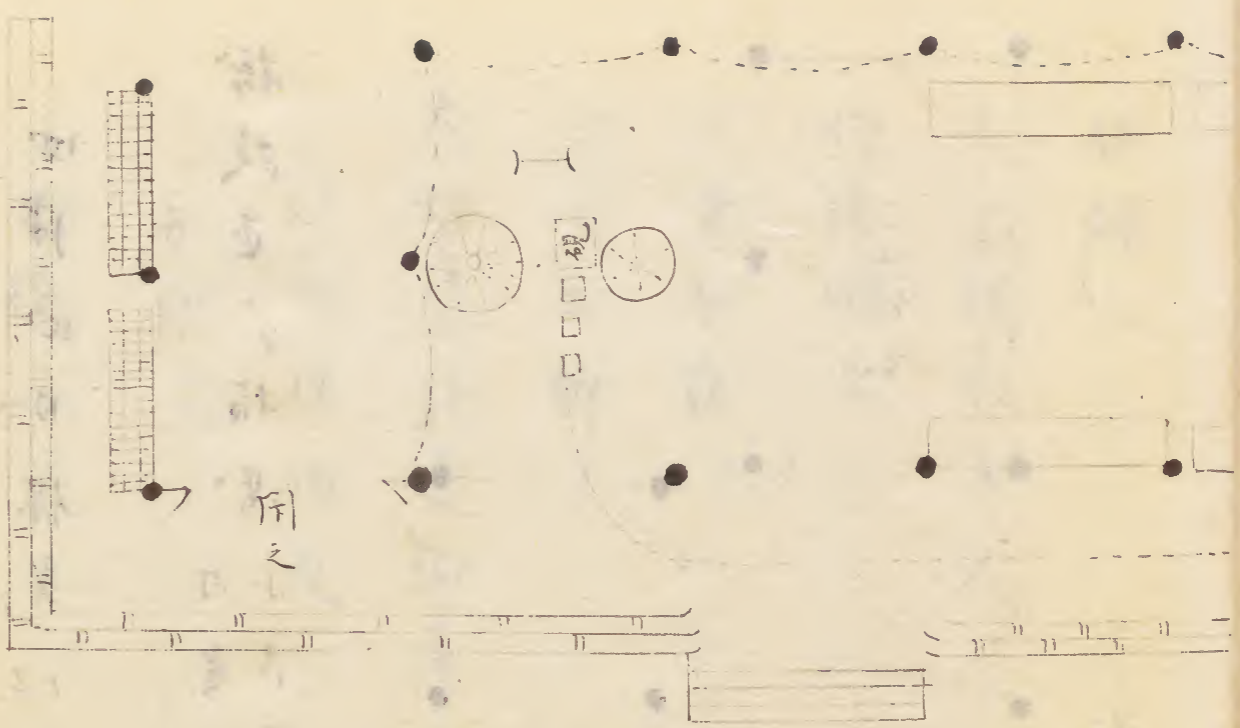
不役

言長朝

四月四日保光口注送之

按政直广指
内囊
小注不也





永德三年

二月三日釋奠

上丁

上卿万里小治中納言

房

左中弁資衛朝臣

卷人及奉行藏事

女納言房長朝

厚嗣朝臣新大外記良賢大夫史兼治

少外記仲季木

所主初秋直降清原賴季奏勅之宴極交如例

文人勅解由長官言長朝臣民尸大捕長遠武

尸女捕為守大内記長方序者藏人中勢

道長賴

同五日大原野祭 式日 九中弁資御朝臣参行
内侍上御外記史亦不参申

同十六日因幡神祭 式日 九中弁平知補参行

内侍上以外記史亦不参

同十六日天王寺別當宣下上に按察中御言

佐資藤大夫史兼治亦参陣

青蓮院二品親王尊道法親王可為天王寺檢校

馬由因乃の別老の参く也

中一様つとあししやそけ男

馬一割しきりしつりあわ

わつりききししと取

又信都と一人 之の信繼一人 参をりし

物許長し 山敷多とけ 控七人

准后室下事ハたゞ一ツル

便令所ノ事

一ツル子別ノ事ハ俄ニ傳下

カクハシテ長ク

不具ノ身取陰卒尔ノ出仕

到レテハ所ノ事ハ秘ト

下レテハ所ノ事ハ秘ト

弁賢者大田記長方中務少輔

弁賢

仲季秀職師者系陣ノ

日時定上ノ口ハ職事

賢者

斜

陣後

神祇官ニ奉ル月以神と合

月以神と合

准后勅事

准后勅事

准后勅事

准后勅事

准后勅事

准后勅事

准后勅事

准后勅事

准后勅事

准后勅事

四月

りりり

永徳三年

去月八

月、被定可被造也、帳口時

今日九日甲戌

時末二時

口月下九日、清寶殿、并廻廊上棟也

同日五日、教達、除川、依使、依石、清水

火事之武藏守、在原信輔、胡卜、為使

同日、宣旨、八幡、文、出、火、神、人、在、回、令、法、家、勒

尸、所、為、飛、者、同、為、炎、上、夜、者、直、崇、和、官、庭、令、問

注子細

同日十二日、被彈、云、來、月、二、日、下、有、八、幡、延、交

准、放、生、令、改、二、儀、法、司、者

同月十六日、燒失、燒損、分、御、裝、束、以、下、為、寺、注

申之

同月廿五日、中納言、在原宗輔、以、糸、着、伏、在、被

勅申可被立石清^水或付^住日附并^一奉^移水
群^下新造^寶殿日附^七被取^湯燧日附^未

立^御住日附

今日^未七日^壬寅

日^巳二^時 未^午

奉^移御^住日^新造^寶殿日^附亦^人部^立亦

四月^二日^丙午

日^戌二^時 未^未

可^被取^湯燧日^附

今日^未廿七日^壬寅

四月^二日^丙午

同四月^江調^張壘^御苦^神廣^政以^裝束^御捧

物^不物^未以^奉先^少并^雅繼^胡長^為使^先天^后

以下^奉白^被為^被行^近立^事其^職被^唯放^也令

同日^控中^細之^左原^成通^以奉^忌仗^有被^發是

奉^帝使^上令^調之^御唐^鞍三^口給^播磨^守忠^隆

朝^臣有^使有^御告^文中^未令^調之^法樂^三基^給

同日^宣旨^云

造^八幡^云回^司未

越^若手^為名^頭保^勅下

養^正年^平忠^威胡^下

已上可為遷仁功若
播廣者為忠階劫卜

進可隨申請者

彼為造畢之後三日有近事仍如下

計宣旨

同月十日賜大德^四并大告^宣旨^改造完使

方家兩司^共開寶苑撰進八幡文^緣記^也

口月亦六日石法水臨時^也去月依火車間

涉法起引日日應陽祭^也照陣奉任^也御占^也右

清水文常燈可取信陽燈子并大僧正定海山

殿頭大律師亮聚^也人同^也古凶^也刺^也是^也聚^也今^也涉^也占

同日賜^也古^也宣^也旨^也云^也可^也改^也造^也立^也外^也殿^也法^也祥^也否^也可

波^也引^也涉^也占^也而^也依^也事^也程^也而^也恐^也遺^也大^也僧^也正^也定^也海^也辛^也東

寺有智淨^也仍^也傳^也十^也口^也七^也箇^也日^也同^也修^也理^也趣^也三^也味^也令

祈^也請^也又^也其^也供^也斷^也作^也河^也內^也粉^也津^也小^也回^也司^也可^也令^也運^也送

同^也日^也持^也大^也綱^也言^也為^也示^也實^也能^也以^也希^也入^也被^也勅^也於^也石^也法

水^也云^也二^也波^也行^也以^也初^也日^也時^也

水云二波行以初日時

今日廿六日庚午 時酉二點

同五月一日 左大臣奉入被行新廊下 乞不
清水殿御辨新可奉造否并謹回寺御辨可
奉渡本殿年夏也

同日四日 左大臣奉入被行造石清水寺幣使
依左陽燧不被信掌燈也 未七日十五日支

日同二夜 供之由被作

同十月十日 宣旨云 皇中御安信奉 歿申強

陽奉占申 今日一日 八幡外及御被可被改

造新像小將又一奉渡謹回寺御辨否御占祀

認子問在憲度賢未若

同月十日 西殿頭大法師免壽以火殿玉寫

陽燧供御掌蛇伴玉土令獻給被納御殿

左少弁雅保胡卜系白符知其

同日亦七日 石清水行奉也

同月九月一日 左少弁雅保胡卜信石清水

遷行奉賞叙從記 弦上

同月十日 石清水寺御殿頭法橋免壽去正月

光上之向儀御前之上五陽燧供嘗燒嘗可賜
一陽之由被作之

同八月十二日被發是石清水寺帶使是彼調

獻束十五日放中令同威儀物也仍事九少

并紙經胡卜為使當日各先被部可被奉獻神

寶日時并不當亦可被供奉寶曆壬辰日時

延武五年七月十一日也刻石清水八幡寺回

福自馬場殿火出隱寶石以下悉燒失非寶御

裝束亦同燒去御侍入護國寺神功皇王御冠

御輿一基大御軒八本外殿御正軒列云以下

沙律女之奉五部

同六日為左兵出發資財以奉以八幡宮回祿

年并之事律以日限亦可注進之也彼作下也

同七日為大宮中納言院陰卿奉以之被尋下

例

同十四日係彼文回祿被尋察朝事五少日

同日依日中一被行廊御占之陰陽察申

同不細之同也

同亦五日 宣旨云右清水云卷上臣等去官
仗矣檢言上若

同亦八日被示回祿案檢之右少年平親名右

大史安倍盛宣左史生紀氏總右史生紀職親

右官掌中原尚繼木桑白之

燒跡祓殿持若垣前地上敷座并以下看座

祠官檢校通清法系同參總之垣例佛記多

以下何項可有沙法外之旨被召問之至任

保延例殊殿造身之後不被逆行人左右可

同依 勅定之由通清申之掌燈之子細同前

同

同同七月八日被作下之八幡文造替日時同

月二乃何項之准據例之注之

同廿五日燒失神室泚裝束之寺江進二卷為

左中寺乃治朔卜平抄被下之所從進功得之

由即之作之

同亦八日係被示回祿事大納之具親以系入

被新打扁法卜同日被勅同示寺造管日時

入抄採枝未日時

八月一日壬辰

始未作日時

十一月五日

立抄上棟日時

十月十一日甲辰

主柱次才先西北東次南次水

同日被宣下同高寺造回用事

作刻云令相換回司造云石清水

同八月十一日石清水寺造美本作始之勅使

左少年發系為作胡下右大史委信威室元史

生紀氏為元室常中原回友相與德司亦齋向

一陸陽齋少元安信齋室同齋向

造管車未工及知仕自武家法取新足奉約

而今日不齋一乃未工案年頗久定后具工

葺齋向武家使後友對馬守仍重日參向

保延至一向為造因日沙法引不及勅

使冬川然而上度後相換回左馬不直茂

此可齋仍任仍唯造灌回寺例被之勅

仗

同日左兵清皆實明以參入色發之石法有一
社奉幣使檢中納之者亦陞陞以次官右京極
右史源仲治胡卜也

日十一月十四日大正中納之陞陞以參入被
勅改石清水云云柱上棟日時

立柱日時

同日本月亦五日乙酉同時辰二點

式本式柱式別是西次東次南次北

同上棟日時

同日乙酉

時申二點

同亦五日同云云柱上棟之上以大正中納言

降臨以左中弁為治胡卜右大史安倍盛宣虎

史生紀氏兼中為織村左字掌中原同友隆陽

察於漏刻將士定為舞人久吉代本參新之

之日儀前右府長通公作進項方

同十二月二日神寶法裝束新足且六万尺武

家進海被下給、夏官一

同四日造石清水文通文初更而并神寶始之
大文中納公隆薩以參入先陣被劫日時次
大中并治胡卜右大史盛宣以下相引列衆
若仍予不水祇友
可被始石清水八幡文神寶行事日時
今日四日甲午 時中二點
可被造始日通高神寶日時
今日四日甲午 時成二點
同十三日大文中納言隆薩參入被劫石清水

八幡文通文日時

可被立石清水八幡文寶殿法帳日時

今日十四日甲辰 時乙二點

可被奉移石清水八幡文法禱祈新造寶殿

日時

今日十四日甲辰 時成二點

同十四日石清水八幡文通文之上以右大將
源具親以桑後左原賴房以右少年左原顯友
於少外記法系成政右大史安孫盛宣高橋景

織左史中紀氏中在織村
中掌中在回友紀光原次
右中將定親朝卜左馬寮
神宝法紫米以下乃中
相具今日刻与献

今夜近云依被用保延
又前右府者通
武家等初中

讀目

下可言
於中納之左原親雅

藤原長嗣

藤原不行

侍從

内藏

藤原兼貞

兵部

於少滿菅原在膳

山城

左邊中

少將藤原師成

右邊中

藤原乃甲

左邊門尉

源清尚

大藏

藤原宗久

左兵衛尉中兵衛俊

右馬允安佐氏廣

永德三年四月廿三日

辭退

權中細言藤原公勝

同日

典侍藤原春子

四月

十九日雨下及中并頼房朝卜送沙袋事云

來亦五日以乃文字活回部

日完可之嘉仕行也

撥改注消息而也

以乃文字活

詰又新治

左障以乃我之車

今朝保光以送状云來亦五

日院号定平行事以日候以作發御朝卜之乃

托板中、去之、之、中、部、取、記、之、借、給、之、之、是、事

院号定記子探息之

今夜有地震天正初

亦一日雨下之府号 仙洞又号

三日反下

文字消
以乃文字消

野園也上比按察中細文字消

不參元其屋小

外記師仲

於右少辨貧房奉以藏中

外記師仲

亦三日 雨霧甚 亦除 亦師香胡卜送之

於中細之 左系親張

系後 菅系長 嗣

菅系長行 息

侍候 友系 右

左邊中將 源通定

少將友原 源成

右邊中將 源業 純

友系 右尹

自全 羅仁 略

辭退

於中納言 友系 公勝

同日 新院御在位 之 所 勾 而 內 侍

號民部 以 公 弘 卿 參 議 事 大 納 言 以 狀 賀 遣 彼

卿有返事

亦四日 雨下 或 降 或 以 今日 賀 茂 學 之

大外記 師香胡卜 亦 送 之 前 大外記 清原 宗季

初卜在十六日卒在何大外託良賢筑屋文敷
開圖以日概指中細之經重以以法發書之
存知之月以作之凡文敷開圖一代之中
家介紹不專好之而之度以始例之保良賢不
可況也例也

左相府今日泰日資康發發仲光等以古從
系入为例之申刻紙道中使系入多
今曉有大地震之奇如鼓之動也我車之年
如此之地震每之消所也古文後日在尋守

經胡卜之文河送之可地後日記之

亦五日今日系之公事以切之後日在尋子
師香胡卜之文河送之四錄之

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 國郡卜定要陣公卿

左大
一 后殿 西園寺大納言及

大炊出門部大納言 拙泰中納言

師中納言 日野中納言 中内門

宰相正殿所中納言
執事
條事

一 國郡更

近江國野洲郡丹波國 多記郡

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

西

永後史記外記出流人

按右少将安部経基

上江村安部経基

此外卜定要陣公卿

上

内記未注源朝事

一 同 勘 卷 草 事

大嘗今拾校

宗速(外記)上(上)部

控大細言通

賢(郷)下(大)川(長)方(大)丈

控中細言後

上(江)野(中)細(郷)車(大)中(車)

糸(後)左(系)总(長)期(下)

一(上)号(所)新(車)物(車)

口(行)車(并)

悠(紀)左(中)并(左)系(資)郷(期)下

一(悠)左(中)并(左)系(資)郷(期)下

主(基)右(少)并(左)系(家)房

一(主)基(右)少(并)左(系)家(房)

院(号)定(公)卿

院号定公卿

口(前)甲(羣)卷(門)一(未)尋

一(口)前(甲)羣(卷)門(一)未(尋)

兼(一)未(被)作(院)号(以)前(一)上

兼(一)未(被)作(院)号(以)前(一)上

御(退)か(し)右(西)園(大)細(故)移(臣)

御(退)か(し)右(西)園(大)細(故)移(臣)

右(六)日(畫)程(又)有(比)震(水)沖(動)云(但)存(又)

不(石)留(亦)比(日)云(守)任(期)下

不(石)留(亦)比(日)云(守)任(期)下

亦七日地震古文

相尋之知子經却下

源送之

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

今日亦四日丁酉晚寅時大地震有音月在奎宿

天文錄之地動無數動又之地動朝庭多賊

國受其咎又之地動有乱臣主不安

京房故占之地動必有流血天地陽辟志之

四月地動不過一旬無紀內論之月行奎宿

若龍神所動天子凶大臣受殃董仲舒曰地

震廢廢紀天鏡經之地動天子惡天地災

記之地動四海有兵長抱朴子之地震必有

大戰

宿曜經之火曜直日地動其車多兵馬

永德三年四月廿七日權天文博士安倍朝臣守經

亦八日戊戌劫地又大震

廿九日今日又地震小動

亦日

今日廿四日丁酉朔庚辰大出...

五月小

一日晴今夜武家仁服注

自去亦五日不始也地震行誘

二日...

三日今夜戌刻中納言波平...

入滅...

光孝

全才

入寺河東大子堂

光院

建威

光陽明筆

狀

存

長光陽明全見也

四日雨下白毫寺信或荷上法自南

東臨不誠心院二行如法院(自持寺所拓

謂也(以長該防在交环法印)

五日雨下終日不止

六日

雨下西刻許屬晴

七日

八日申刻天地震

例六府結進也

法華

九日

十日

十一日

...

十二日

...

十三日

...

十四日

...

十五日

後同今日開東使若 所野菜 上洛

宿妙戒院

法給寺 門院律儀

其院十尺不跨人

夫亦四

五十人 不知何事類同

十六日

今日文殿開園 後大外記師

香胡片

初系 但正雜新沙法上 正也

仕

...

十七日

...

十八日

近出前開白并丸府江向未固 政

香胡氏有佳文持大納言
花山院大納言通亮也而於服事如車仍被改
補

古古日雨下雨半刻以後屬晴今日大掌令行
車不始也按政并左府系內之
雨刻南方戶銀花生十三歲女見行仍是有
世胡卜之鬼之根花之系子細一腔口舌也
後日、六月二三日十二三日古二三日七月

三日未

古四日壽隆不完晚以白常任院傍正詳
奉坊却子子後力僧正使節奉大納言對面
予柳心神不測之故之帶僧正狀來也所詮任
西法乍自去月病恹存七旬老者月古今之
雖存常明之神也極正正不中事頗有忘執
之月月之月款中按政而先年禁裏淨波也
時口玲若勤仕事以大子殿口狀力与院中
也伴口狀終失皮年狀一通之書給之以可

了務政又宗之院師跡事以作付任承法宗
与入滅名梅良勝法服常任院若一以作付
之也五系我信正状以法名事送身是任承法
宗之状書与之)又宗之院師跡事大切先不
二有子細進相委一尸之与込事) 院師跡事
大花以 房車又为見物不湯以均事 院師跡事

亦八日 霧今在務政并九府宗系院有一款
三空院 院 沙法
送之

去月 一日去月亦六日八日亦之強大外記師居躬

長内之注送之仍法

い した いつ もかき 礼を

この

あ

いつ

らう

らう

去亦六日大嘗令行事不始不以凡
之陣一日時一行一上比大炊門所
大細之 拾授織事以右中弁賴房朝臣 為方
行事并 悠紀 寶御 朝下 主基 家友 大夫史急治 云任史季藏
家也臨陽祭有世在臥有茂小朝下 參陣
次行事并以下相引參中司 小東廳代 惟
饗膳 勅 以下儀如例臨陽祭在臥有茂小
朝下 皇衣 祿祇中 總遠宿祢 總教中 臣
基親 小 泰仕 官 方 史 生 中 司 小 參 會

同日八日 日卜食行事不移也 小官東廳代
惟有之儀 由行事 弁五位 去任史以下 史
中掌 小 參 入 一 此 日 之 臨 陽 祭 在 臥 有 茂
小 朝 下 參 上 又 祿 祇 中 兼 遠 兼 遠 兼 遠 兼 遠 兼 遠
基親 小 泰仕 有
鎮謝事 悠紀 祿祇 中 小 廳 之 基 臨 陽 祭
行事 中 皇 廳 其 儀 如 例 同 日 東 萱 門 大 後
參議 為 長 朝 下 拾 授 以下 參 引 之 友 日 儀 為 局
之 中 小 使 之 儀 悠 六 任 小 者 有 陸 不 參

又初年冬亦六日() 俄延川()

本朝() 亦() 亦() 亦()

二日() 亦() 亦() 亦()

三日() 亦() 亦() 亦()

四日() 亦() 亦() 亦()

五日() 亦() 亦() 亦()

六日() 亦() 亦() 亦()

七日() 亦() 亦() 亦()

八日() 亦() 亦() 亦()

九日() 亦() 亦() 亦()

十日() 亦() 亦() 亦()

十一日() 亦() 亦() 亦()

十二日() 亦() 亦() 亦()

十三日() 亦() 亦() 亦()

十四日() 亦() 亦() 亦()

十五日() 亦() 亦() 亦()

十六日() 亦() 亦() 亦()

十七日() 亦() 亦() 亦()

十八日() 亦() 亦() 亦()

十九日() 亦() 亦() 亦()

二十日() 亦() 亦() 亦()

九日 上 痛 危 病 更 甚 申 尅

十日 亦 亦 亦 亦

十一日 亦 亦 亦 亦

十二日 亦 亦 亦 亦

十日 今日清秋清下卷

十一日 月次神會食祭

暑氣如燒及晚夕立入夜雷雨數聲甚

上滿痘病未斜發自昨日服草菓飲然而耳

其始非脚寒瘧之疾也今日以介大事發初心

津結如無似邪氣之毒之奇之仍拓曲菓以邪

成期卜依力色色之令見之虛胸胃開令矣之

其後脚靜了就寢更不寧夜不及食飲窮屈

不知存方之辨之邪成期卜存存草菓飲不相

應四戰陽之宜

十二日 陰及晚晴早且邪成期卜東上滿暑而

又施某院使廣成期卜東依古拓之草菓飲清

脚湯不二肢之由示之計了筒不五叶兒

及咳四款湯之合色之台亦也邪成期卜了斜

足而尺是之要媽之証伴良菓之相合也自身

持齋之咽噤寅刻新汲水之量之量時以分

三子齊二版之

十三日 清秋清下卷

十三日瘧病除有更發之辨其無感之候也夫
略二落居人之也邦成朝卜稱之皮朝卜之名也

十四日例亦休精之也其狀不正親町安内
府彼狀錄之件狀持向之時分小皮公門前有

讀
濱有

事牛童後高之飼口童醉在皮色在比岸及
惡口色之之至前内府乃仕在侍男共其拔太
刀教之切件飼口亦走入个仍手是較

聆

不及返之之青侍振舞之謂也忽之後也
件飼口之日一人死去

四二二二二

同日 以行消威

九月

大政官謹奏

大嘗會 御禊 御裝束司

長官正三位藤原朝臣經重

次官從四位下藤原朝臣資衡

判官正六位上安倍朝臣成家

判官正六位上紀朝臣職景

主典正六位上京名孫孫氏

主典正六位上安倍朝臣賴度

次第司

御前

長官從二位藤原朝臣資康

次官從五位下菅原朝臣有守

判官正六位上紀朝臣重弘

判官正六位上和氣朝臣貞種

主典正六位上和氣朝臣重次

主典正六位上紀朝臣久有

御後

長官從三位藤原朝臣公仲

次官從五位上攝朝臣知季

判官正六位上中原朝臣季度

判官正六位上家名孫行嗣

主典正六位上和氣朝臣助持

主典正六位上和氣朝臣豐貞

永德三年九月四日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 水, 火, 土, 金, 木.

此乃... 使時分... 寸色... 張標

水法之云十記

此乃... 肝... 寸... 乙

不及... 取... 甚... 致... 功... 矣

此乃... 寫... 第... 也... 符... 五... 極... 作

何... 宋... 寸... 外... 是... 數... 源... 只... 出... 不... 月

此... 乃... 病... 所... 無... 矣... 下... 之... 醫... 家... 矣

横亦又云石依組中平山居ても

用 石居ても

然今度亦乞凡一人又下乞

事今时用刻再平了糸勿漏

物石所候只利在許常

而今分獲時有只用非許

上古水運推運運也

近年人々所為江ゆる到只と指

事木且也々々々々々々々々

糸々細々細々細々細々

如組め付若事

石居ても

下給時

勿漏

中古以来

答

非細時

大

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

禮。P. 1. 又の事の次之を 宣旨一通

何れか入る 是より便に 宣下すP. 1. 0

仁徳下 仁徳下 仁徳下 仁徳下

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

畏てらけいぬりりぬけりし事なりP. 1. 0

すい争にうつるやん

んすすすすすすすすすすすすすすすす

すすすすすすすすすすすすすすすす

アノノノノノノノノノノノノノノノノ

すすすすすすすすすすすすすすすす

所あすのらりるるるるるるるるるるるる

介と只と平外はと大嘗之同
官方以中尸
後勿方後政務内介後官下
来古又日勿方後内介後官下
研瑞亦就比降謝喜え河後か
帝下古卜の上首の大長官仕例寛和

元承十月亦み日比禊薙下法興院及

古大臣歌信被泰頓文不接騎馬之

取保之承十月亦日比禊内大臣行長お節下

古大臣師房侍奉内介而之知の下

以上并奉下あるる大臣侍奉例先親

勿端この山

わん
らん
らん

對面ははつりわらう

弘安十一年二月五日の持中御系

竹中左衛門衛

高歳うてがら弘安十一年正月十日

福あ當日又十二月十日辨在室

所へ又平結中

之はし但ナラ

カウの福もか

はもとつ

又世の中い

あつらふ

作らるる

なにか

按、此、行

之、友、不、仁

以、其

又、法、道、勤、文、友

之、例、殊、

不、仁、只、心、作、例

亦、礼、法、在、社、会、中、一、也

何、流、一、行、切、原、書、字、之、終、一、中、切、高

大、地、一、行、时、被、先、人、家、魂

此、行、院、可、藏、之、奏、因、上、中、切、未、之、法、也

位、子、行、藏、之、知、未、友、位、也

一、行、之、行、也、也、也、也、也

一、行、之、行、也、也、也、也、也

一、行、之、行、也、也、也、也、也

一、行、之、行、也、也、也、也、也

新其想如直盛計圖以上以月書本
官本無大因無書麻小方信回其書書
正結百千歲以
永德三年二月三日釋奠

永德三年

二月三日釋奠 上丁 上御

万里小路中納言 副房 左中

并質衡 納言 花人 少納言

天皇博士 秀長 朝臣 日 淳嗣 朝臣 新大

外 沈良賢 右史 兼治 少外 沈

仲季 少外 上 初 沈 直 海 治 系

賴季 齋 勅 之 宴 德 化 如 例

文人勅解由長友言長胡臣

氏丁古補長遠或丁古補

為守古月託長方彦

藏人中督臣長賴

天皇于於

青遠院二親王可為

兼侍小者御

右兵衛權左實藤方丈

并實御領御藏人

上乙亥按察使中納言

同十月廿六日天武天皇

外此史亦不奉

同十月廿六日國輪神祭

馬中園及

河下

別

中

又傍御之人

執作是

此の三ヶ所 年賢の印をぬく

准后 宣下

使宣下時

一ツのり

あつ

不共の身取

別

上ツ

年

仲季

日時

汗

神

目

を

印

三

信

三月廿九日

永德三

六月八日

同日被定可被造御帳日時

今日廿九日甲戌 時未二點

同日廿九日御寶殿并迴廊上棟心

同三月又日被發是除時常估役依石清水文

火車之武藏子查系任捕胡長為役

同日宣旨云八幡天失火津人進國令信原勘

尸所當眾名同天炎上換白直輩於及應令向

河子細云

同月十二日被作云本月二日可有八幡遷文

非放生今後可但法与者

同月十六日燒失燒換分沙裝束以下天与注

中

同月廿八日中細云查系任捕一着着仗元被

勅申可被立石清水文法帳日时并奉移御

译於新造寶殿取日时可被不湯燒日时亦

立御帳日时

今日亦七日壬寅

奉移御译於新造寶殿日时

四月二日丙午

时戌二點

可被不湯燒日时

今日亦七日壬寅

时巳二點

四月二日丙午

时卯二點

同四月被調款靈山甚神樂之敬由裝束由捧

物方物亦仍于左右年取總胡長物使左大臣

以下系向被文社切遷文事共成被以敬生會

同日權中細之友系成通以靠着仗衣被發毛

奉幣仗上令令調進法唐鞍三口給播磨了志

後胡長物使有御苦文中官令調進御樂三卷

給

同日宣旨云

遣八幡文國司未

紙前与友系頭保朝臣

英作与平忠盛朝臣

已上可為遷仁印志

福磨与友系忠盛朝臣

追可臨申請者

彼文送年之後今日有遷文事仍被下以

宣旨

同月十日賜大和國并大安寺 宣旨云遺市

役支取不可相共同實花撰進八岐文緣起者

同月廿六日石清水臨時祭之去月依火事間

取元 汝法延引

同日法陽祭於服侍所占是石清水文字

燒可取元不供陽燄事并大傷正定海御殿領大法

師是嘉友人間吉凶事是嘉合所占

同日賜文与 宣旨云可被造立外殿御禱者

可被仍御卜而依事終之思遣大傷正定海年

東与有智淨所傷十日七箇日月所記紹三昧

今所請又其供料作所日務得亦同司可令遷

送有

同日權右綱云左系實能一系入被勒於石清
水天可被祈祈日時

今日廿六日庚午

時辰二點

同八月一日左大臣系入被祈祈廊法卜是右
清水外殿法神新可奉造否并護國寺法神可
奉後奉被^{敬元}辛事也

同日四日左大臣系入被食也石清水奉幣使
依右陽燈可被供常燒事也來七日十八日支
日乃可不在彼之中被作

同十月十日

皇旨云之斗勵物倍泰親勅申

法陽祭占申云今日一日八幡天外殿法神可
被改造新儀外可奉後護國寺法神吾祈

占祇禱子向在恩廣賢亦志

同日十八日祈教頭大法師是帝以火所^{取元}玉寫

湯燈供祈常燒供玉上皇令就信被始祈教

左七年祇園御祭奉向拾知其事

同日亦七日石清水祈幸

同日八月一日左七年祇園御祭依石清水

遷天約市^子賞叙從位上

同日十日石清水入油敷頓法橋是衰去正月

卷上之尺候申前之上取湯燵供學燒賞可賜

一階之也被仰之

同八月十二日被發是石清水子幣使是彼洞

執來十二日放生余子威儀物亦之仍子左女

并祇園御祭為使當日者先被節可被寺執神

變日時并於尚文可被供奉定膳王延日時

建武又承七月及七月刻石清水八岐又回祿

自馬場殿火出現寶石以下悉燒失非寶御裝

未亦同燒失御神入護國寺神功堂玉御冠沙

與一基大沙鉢八本介殿御正神若文以下御

祇園奉玉出

...

同六日為左兵部發賣的以奉仍八恤文回錄
年并公事停心日限亦不可延進也
同七日為大文中納之落以奉仍之被印下
例
同十日依彼天回錄被作廢期事
之日依同事可被仍行廊清占之
申子細之另延引
同亦又日
使矣格言上

同廿六日技文回錄實格之右少年親右右
大史安倍盛宣左^{大元}史生紀氏兼右大史生紀藏
親右友學中系尚繼亦系向之燒跡神教據荒
垣前地上交度并以下着在詞及格校通法
法系同系着之垣例佛神以下何例一之
沙法式之^旨中被尋另之系任保延例神教造
卒之後可被逆切須左右可依勅定之也通
清中之常規事子細同前之
同同七月八日被印下云八恤天造留日時定

閏月七為何頃哉水按例可徑進

同亦八日燒失神寶御裝束支子徑進二卷打

左中弁為治期非亦仍被下可徑進切得

中印被作

同廿八日依故支回祿幸大綱之具親以系入

被仍於廊下

同日被劫同支子造吳日時

入松椽材木日時

八月一日壬辰

始本昨日時

十一日壬寅

立柱上棟日時

十月十三日甲辰

立柱次月

先為次東次南次水

同日被 宣下同支子造國司事

作約云今相 換國司造吳

石清水

同八月十一日石清水支造支本作始

初使九少弁友系經為期長右大史安倍感宣

左史中紀氏兼左字學中系國友相具請司亦
桑向之陰陽案少元乞元安倍泰定同系向之

造吳子亦工既知但自武家請示新是事
新之而七日不系之月亦工案子頗久是

古具工等系向之武家使後友對了了行

重同系向之保延度一向為造國司所治

以月不及 勅使系仍然而今度後相換

國司 左子既直等期片 此可系仍之仁仍

水造護回古例被立 勅使

同日九玄當智賢明以系入致發在石清水一

社事 幣使控中納之者系陰蔭以次友右系

控方丈原仲治期片之

同十一月廿四日右文中納之陰蔭以系入致

勅改石清水文立柱上棟日時

立柱日時

今日廿五日乙酉 時辰二點

立柱以先西次東次南次北

上棟日時

同日乙酉

時申二點

同亦五日同文互柱上棟之上以右大綱也
院落以左中并右治朔片右大史安信感是左
史生紀氏兼中系藏村左友掌中系同友院陽
案檢漏刻將士定兼察人久春代亦系刻之

七日儀前右府長通公仰進以

同十二月二日神寶清裝束形足日六方尺武
象進厥彼下刻之事官
同日造石清水遷天刻子不并神寶始也

大文中網之院落以系入先右陣被刻日時以
左中并右治朔片右大史感定以下相引刻系
着刻子不神寶友
山庭

可被始石清水八晴天神寶刻事不日時

今日四日甲午 時申二點

可被造始同遷天神寶日時

今日四日甲辰 時戌二點

同十三日大文中網之院落以系入被刻石清
水八晴天遷宮日時

可被立石清水八幡宮寶殿市帳日時

今日十四日甲辰 時巳二點

可被奉移石清水八幡宮御於所造寶殿

日時

今日十四日甲辰 時戌二點

同十四日石清水八幡宮遷之上以右大將

源具親仁系滋養系賴政以右少年在系顯者

檢少介純清系政右大史安信威定高橋景

藏左史生純氏兼中系藏村村木介寄左史生

左史中系國友純光兼以右中將兼系朝

臣右中將定親朝臣左系察檢以系以下系

向之津寶所裝束以下為字示調在六位史以

下其具之日刻奉獻之

今度遷之故被用保延以貴又右右府

長通公門之系向之每奉尋沙法之式

系奉仍中之入道和系以亭亦

後目

權中納言藤系親雅

系滋

管系長嗣

藤系公行

系

侍從 藤原為右

内藏於頭賀茂定高

即藤原兼貞

兵部少輔菅原在興

權少輔菅原在勝

山城介和

左近中将源通定

少将藤原師成

右近中将源成德

藤原為尹

左衛門尉源光景

源清尚

大藏種頭

藤原宗久

左兵衛尉中平秀俊

右馬允安倍氏廣

永德三年四月廿三日

禪退

權中納言藤原公勝

同日

典侍藤原春子

五日

六日 嘉祥殿服始之 中以外 喪祭又不食、在

也

七日上為有瘧病之身

八日

九日上為瘧病又發 申刻

十日之日法神沙卜爻

十一日月次神之食祭

晨昏如燒及晚夕立入夜雷雨雷發聲甚

上為瘧病未糾發自此日服草藥飲純石之其

法眺畔寒瘧之身之日以介大車發初分神

殆也此似神事之精一奇之四拓典某以邦成

胡臣依力之造也今人之虛弱胃弱令多之身

後初動之就寢更不寧欲夜不及食便窮極

不知何方之邦成胡臣不及草藥服不取意

四疑湯之身之

十二日陰及晚晴早且邦成胡臣身事上為對面

又施藥虎使瘧成胡臣身事依在拓之草藥飲清

腸湯亦之服之申刻之計了筒不取叶之

及吹口款湯之合之之方示是邦成胡臣身

時白高日竹
其民丁口病之

典傳汲桑也

仍以系... 事大細之... 以狀... 投... 有... 事

亦四日雨下或海或山... 贊... 桑... 心

大外記師... 朝... 示... 送... 云... 前... 大外記... 清... 系... 定... 季

烟... 臣... 去... 十... 六... 日... 卒... 去... 四... 大外記... 良... 賢... 范... 居... 文... 敬

同... 圖... 事... 以... 帆... 控... 中... 細... 之... 控... 之... 以... 以... 散... 事... 可

存... 知... 之... 旨... 被... 下... 下... 之... 之... 風... 文... 敬... 同... 圖... 代... 之

中... 家... 外... 記... 不... 幸... 仍... 之... 而... 之... 夜... 被... 始... 以... 例... 被... 下... 良

賢... 不... 七... 說... 聖... 汝... 之

左... 在... 存... 之... 日... 冬... 門... 資... 康... 貧... 友... 仲... 先... 亦... 以... 在... 從... 系

入... 如... 例... 之... 申... 列... 欲... 通... 求... 役... 系... 入... 之... 之... 晚... 有

大... 比... 震... 其... 音... 如... 鼓... 之... 初... 如... 我... 車... 之... 子... 如... 以... 之... 地

震... 之... 消... 肝... 之... 之... 占... 文... 後... 日... 在... 身... 守... 經... 朝... 長... 之

交注をいふ能は日記之

亦入日之り糸と公事被り日記

唐胡氏之字は送之河濱之

大正日之り糸と公事被り日記

亦入日之り糸と公事被り日記

唐胡氏之字は送之河濱之

大正日之り糸と公事被り日記

亦入日之り糸と公事被り日記

唐胡氏之字は送之河濱之

大正日之り糸と公事被り日記

亦入日之り糸と公事被り日記

唐胡氏之字は送之河濱之

大正日之り糸と公事被り日記

亦入日之り糸と公事被り日記

唐胡氏之字は送之河濱之

大正日之り糸と公事被り日記

亦入日之り糸と公事被り日記

唐胡氏之字は送之河濱之

左 大正日之り糸と公事被り日記

大正日之り糸と公事被り日記

大正日之り糸と公事被り日記

大正日之り糸と公事被り日記

大正日之り糸と公事被り日記

大正日之り糸と公事被り日記

大正日之り糸と公事被り日記

番後藤系景長卿作

同日并

悠託 凡中并及系景御朝作

皇基右少并左系景房

一回中

院号芝云卿

園前南系景門号未得

系景未彼原院号以流一上

山通如川方西園系大納流修者

一系景物 系景物 系景物

一系景物 系景物 系景物

一系景物 系景物 系景物

一系景物 系景物 系景物

一系景物 系景物 系景物

一系景物 系景物 系景物

一系景物 系景物 系景物

一系景物 系景物 系景物

一系景物 系景物 系景物

[Faint bleed-through text from the reverse side]

廿六日晝任又有地震水津初立但年久不

替廿四日 年改細作

廿七日地震占又于九月

[Faint bleed-through text from the reverse side]

今日十四日丁酉晚寅时大地震有音 日在奎宿

天文源云地动兵鼓动 又云地动朝庭夕贼国受
其咎 又云地动有乱臣人之不安

京房妖占云地动必有流 天地瑞祥志云四月地动
不过一旬兵起 曰论云月行奎宿有龍神所动

天子山大卡受殃 董仲舒曰地震疾疫起

天鏡德云地动天子息 天地灾记云地动四海有

丘表 抱朴子云地震必有大战

扁曜经云大曜直日地动其年号多兵马

永德三年四月廿七日 權天文博士安倍朝臣

入内侍 山内少輔 藤原朝臣 守經

山内少輔 藤原朝臣 守經

山内少輔 藤原朝臣 守經

廿八日 戊刻地又大震

廿九日 壬刻地又大震

廿九日 壬刻地又大震

廿九日

廿九日

五月小

一日晴之夜或家候眠法 妙法也云 洪願也自

去亦入日而始行也地震祈禱 云々

三日 ...

三日之夜成刻中細之法亦及除母儀 七十歳

入滅 云々 傷定 云々 自左开已日不勇也

傍光 ... 入 ... 東太子 ... 芝 ... 功 ... 明 ... 筆

快 ... 有 ... 後 ... 与 ... 長 ... 老 ... 以 ... 明 ... 令 ... 兄 ... 云

四日 ... 有 ... 下 ... 白 ... 毫 ... 与 ... 傍 ... 戒 ... 前 ... 上 ... 法 ... 自 ... 有 ... 有 ... 来 ... 除 ... 也

被 ... 公 ... 院 ... 七 ... 州 ... 如 ... 法 ... 終 ... 之 ... 乃 ... 自 ... 及 ... 与 ... 不 ... 托 ... 清 ... 也

以 ... 主 ... 錢 ... 訪 ... 是 ... 友 ... 除 ... 法 ... 亦 ... 云

五日 ... 有 ... 下 ... 終 ... 日 ... 不 ... 止

六日 ... 雨 ... 下 ... 雨 ... 刻 ... 許 ... 属 ... 晴

七日

八日 申刻大地震

例六 齋精進也 字 花

九日

十日

十一日

十二日

十三日

十四日

十五日

例六 齋精進也

十六日

十七日

十八日

十九日

二十日

二十一日

二十二日

二十三日

二十四日

十六日 後少 野町来 上落

名妙戒院 徒律 十四

跨人吏亦四五十人 題目不知何事

十六日 齋精進也 後大外託師

齋期 齋系 但之難新沙法上以出

法之 齋系 但之難新沙法上以出

齋期 齋系 但之難新沙法上以出

齋期 齋系 但之難新沙法上以出

十八日 齋精進也 齋期 齋系 但之難新沙法上以出

齋期 齋系 但之難新沙法上以出

被托請之

十九日

亦日

亦一日

亦二日

亦三日

例六麻精進也

言於

二花

亦四日

雨上象中男女讀一万余人既疲瘵

以

以也流外之有也

法尔祇園社之

亦

亦

亦

榎房胡氏

亦八日

天陰雨不降从大中并下口

室前大

亦

亦

亦

亦

一有清文

亦

亦

亦

亦

亦六日

雨下雨半刻以後属晴七日大学令

亦

亦

酉刻南方戶銀花廿三歲女見身
有世期臣之見之浪花之系
也後日六月二三日十二日廿二三日七
月三日

廿七日壽儀不足愧以自常任况
借却記取此力借正使長車大納
平願心津不例之取心常借正
承法尔自去月病惱力七旬光
名

難得之命之津之極友 借正
之身了了月欲了務政口先
自禁裏以渡也
時以法者勒住身以大臣
由狀力支の請七月
之律之狀終失及身狀一通
一之去物以之
尸務政又宗之院師法身
被印身何承法尔身
令入職名稱良勝法眼
常任院門
被印身之也為系成信正
狀由法尔身是任承
法尔之狀去身又宗之院
師法身大印先
不之之子細進野高七
尸之身進

大花以房事 又為見也 ~~...~~ 予不得(由)

廿八日 壽之取務政并九府政氣况有一狀

三寶院批所送 送...

...

...

六月 ...

一日 七月廿六日 八日 亦し後大外紀師多胡

卜四く 託を云く 四法し...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

家色後内景有世在江有哉不翔長多作
次以事年以下如外景中同向承殿代惟
御管膳初直以下係如例後内景在江有哉不
朝下景氣神御及兼遠宿稱兼修兼教中臣
若親亦兼此安方史之字書不兼字
同廿之了同卜官終了而後之中不廳代惟
有後支終了并又位之位史不不史之安書不
兼入之明之の後内景在江有哉不
加下兼上又神御兼兼教中臣若親不兼位有

德謝事 出比神御及如體至是後内景

仍子及者其其後少制 同日兼在門大城
兼成兼長相長以下兼以之其後内景
之之之及之之之之之之有係不兼

又仍之兼上之 俄是引

二日
三日
四日

十九日雨下以○中并預房胡臣道云云
來廿二日
撥政在障之沙消息雨也以上如斗
信文歌治原涼日散之平之胡保光以道狀云
來廿二日院号定字以有以俄彼作安御胡
長し局於持斗云ノ也如平院記之借路云

院号定以之環見七月左右云

之取有地震天王御云云

亦一日雨下左府系仙洞又系四云

二日雨下同也上以按察中
存不系云小字

於大中亦冷

外記師仲云

亦三日雨霽取分海寺師多胡臣云

權中納言左近衛雅

兼左近衛長嗣

左近衛公行

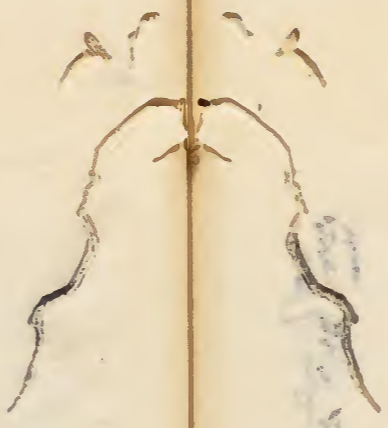
侍從 左近衛右

左近衛中納言通定

左近衛少將左近衛師成

左近衛中納言業繼

左近衛少將左近衛力具



自余雅仁所

兼退

權中納言左近衛公勝

同

又在

太政官 謹奏

大嘗會 御饗 御饗末司

長官 正三位 藤原朝臣 經重

次官 從四位下 藤原朝臣 資敏

判官正六位上 安倍朝臣 威家

判官正六位上 紀朝臣 職景

主典正六位上 宗景 宿禰行氏

主典正六位上 安倍朝臣 賴房

次才司

御前

長官從二位 藤原朝臣 資家

次官從六位下 菅原朝臣 為守

判官正六位上 紀朝臣 重弘

判官正六位上 和氣朝臣 貞種

主典正六位上 和氣朝臣 重次

主典正六位上 紀朝臣 久有

御後

長官從三位 藤原朝臣 公仲

次官從六位上 橘朝臣 知季

判官正六位上 中原朝臣 季康

判官正六位上 宗景 宿禰行嗣

主典正六位上 和氣朝臣 助持

正典正六位上和氣朝臣兼貞

永德三年九月四日

時受使時分付送教條

之辭取答云々

永德之六十七

所云云々

中云云々

取恩報云々

付留云々

一云云々

何云云々

此云云々

有云云々

云云云々

云云云々

系云云々

何云云々

子息亦少あり好意ハカシし其年ト存ルふ所也
至カる迄念ハふ事ナし 燒ケた好ク又

其レ好ク又ハ法家多ク書キ而
乙卯年至リ

妻細ク物ヲ好ムと好ム一見ハ陳セて由

本年ノ又ハ申年人ヲ移シて善ク也

其レ好ク

唯ニ其レ法用しテ糸音をシて時

神緒用ニ徳組人ニ或ハ説物定意

其レ法中生活に生ずル也存

用ニ生活に生ずル也存

其レ法中生活に生ずル也存

抑テ亦ハ之レ不依組仲年以後ト也

其レ法中生活に生ずル也存

用ニ生活に生ずル也存

其レ法中生活に生ずル也存

其レ法中生活に生ずル也存

下流の時めり
車の時用新再引
糸勿漏

勿漏

物多略後只用新絲
糸の丸

中古の丸

可合の麻の時
只用新絲の丸

上古の麻糸

色年人
糸の丸

後物の時
糸の丸

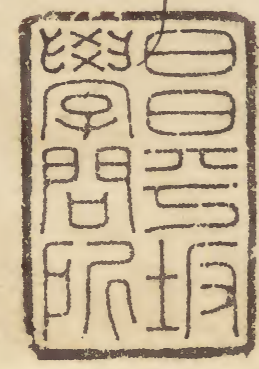
流に糸
糸の丸

糸の丸

糸の丸

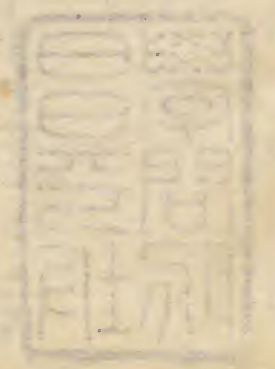
糸の丸

糸の丸



Handwritten characters at the top of the right page, possibly a date or reference number.

Main body of handwritten text in a cursive script, likely Japanese, covering the right page.



文部省 (Ministry of Education) stamp in red ink at the bottom of the right page.

Handwritten character or mark in the center of the left page.

